

令和5年度 千住介護福祉専門学校 自己点検・自己評価結果

令和6年2月 自己点検・自己評価委員会

1. 学校自己点検・自己評価の目的

学校法人東都医療福祉学院「千住介護福祉専門学校」(以下本校)は、厚生労働省及び東京都より指定・認可を受け、平成20年4月に開校した。3月には第15期生が卒業し、卒業生は延べ310名となり、その多くが介護、福祉、医療の現場で活躍している。

～本校の教育理念～

- ①地域にねぎし、地域とともに歩む学校
- ②介護現場に学び、ともに進む学校
- ③学生の成長を支援する学校
- ④教員の資質向上を迫及する学校
- ⑤ネットワークで、医療・福祉の連携をはかる学校

本校の教育理念・目的及び社会的使命を達成するために、自己点検・自己評価委員会規程を平成30年3月22日に制定し、その活動状況について不断に自ら点検・評価を行い、学校運営の改革・改善を進めることを目的としている。

2. 学校自己点検・自己評価の実施方法

1の目的を達成する為に、「専修学校における学校評価ガイドライン」(平成25年3月 文部科学省生涯学習政策局)に準拠した学校評価項目に基づいて、学内の諸活動、諸組織の運営に関する点検・評価を実施する。

- (1) 年度ごとの自己点検・自己評価結果報告をうけ、これを全学校的立場から点検・自己評価する。
- (2) 前号の結果は 毎年とりまとめて、本校構成員(教職員・学生)及び実習施設に開示し、理事会に報告する。またホームページをつうじて外部に公開する。
- (3) 自己点検・自己評価の結果によって、新たな施策を策定しようとするときは、自己点検・自己評価委員会は、その諮問に応じ、必要な意見具申を行う。

3. 重点目標・計画

- (ア) 教育内容の充実と就職支援の充実。
- (イ) 学生募集の取り組みの強化。
- (ウ) 附帯事業、補助活動事業の取り組みの拡大。
- (エ) 情報の共有化と学校管理運営の改善。
- (オ) 財政基盤の安定化を図る。
- (カ) 地域に開かれた学校の取り組み。
- (キ) 留学生を受け入れる。

～本校の留学生受入れのスタンス～

- ①積極的かつ能動的に介護の仕事にやりがいを感じる有益な留学生を受け入れる。

②留学生の尊厳に配慮した学修と生活の指導を行う。

③入学後の日本語能力の向上を含む勉学に必要な支援を行い、介護現場を支える優れた介護福祉士を養成する。

4. 評価結果

【評価尺度】4=適切、3=ほぼ適切、2=やや不適切、1=不適切 ※小項目が複数の場合は平均値としている。

基準1 教育理念・目的・育成人材像

1-1 理念・目的・育成人材像	3.25
-----------------	------

基準2 学校運営

2-2 運営方針	3
2-3 事業計画	4
2-4 運営組織	4
2-5 人事・給与制度	4
2-6 意思決定システム	4
2-7 情報システム	4

基準3 教育活動

3-8 目標の設定	4
3-9 教育方法・評価等	4
3-10 成績評価・単位認定等	3.5
3-11 資格・免許の取得の指導体制	4
3-12 教員・教員組織	4

基準4 学修成果

4-13 就職率	4
4-14 資格・免許の取得率	4
4-15 卒業生の社会的評価	4

基準5 学生支援

5-16 就職等進路	4
5-17 中途退学への対応	4
5-18 学生相談	4
5-19 学生生活	3.5
5-20 保護者との連携	3
5-21 卒業生・社会人	3.3

基準6 教育環境

6-22 施設・設備等	3
6-23 学外実習、インターンシップ等	4
6-24 防災・安全管理	3.5

基準7 学生の募集と受入れ

7-25 学生募集活動	3.5
7-26 入学選考	4
7-27 学納金	4

基準8 財務

8-28 財務基盤	3.5
8-29 予算・収支計画	4
8-30 監査	4
8-31 財務情報の公開	4

基準9 法令等の遵守

9-32 関係法令、設置基準等の遵守	4
9-33 個人情報保護	4
9-34 学校評価	4
9-35 教育情報の公開	4

基準10 社会貢献・地域貢献

10-36 社会貢献・地域貢献	4
10-37 ボランティア活動	4

5. 達成状況、課題と解決方策

〈達成状況〉

(ア)教育内容の充実と就職支援の実施

校外授業や体験授業などを積極的に取り組み、学生の理解を深め利用者の立場にたった介護の実践的教育に努めた。介護福祉士国家試験対策講座を企画して、資格取得を支援した。また卒業生への就職支援の充実のため、就職担当教員を決め、よりきめ細かい就職指導を行った。

(イ)学生募集の取り組み

正確かつ新しい情報をホームページ、宣伝媒体、広告に掲載した。遠方でも参加できるよう、オンラインを利用した説明会を引続き行った。オープンキャンパス・個別説明会では、在校生の協力のお陰で参加者にとって必要な情報を提供する事ができた。卒業生、協議会の職員にも協力を依頼する事で、提供する内容がわかりやすいものとなった。

(ウ)附帯事業、補助活動事業の取り組み

実務者研修や国家試験対策講座に取り組んだ。さらに、次年度からの募集開始を目指し、EPAルート向けの「介護過程Ⅲ」講座の申請を行なった。教育訓練給付金（一般および専門）を受託して受け入れ活動を行なった。

(エ)情報の共有化と学校管理運営の改善

教職員全員参加の運営に努力した。

(オ)財政基盤の安定化を図る

経営に対する現状認識と情報共有を継続的に行なった。同じ目標に向かって一致団結して取り組むこ

とを大きな目的の一つとして、短・中長期事業計画の見直しが必須となり、令和4年12月に理事長のもととして立ち上げた「将来構想委員会」にて、学外からの委員と共に検討を重ね、令和5年8月に「千住介護福祉専門学校の現状と将来構想（以下「新たな短・中長期事業計画」という。）」を完成させた。同年9月に理事会で承認され、まずは短期計画達成に向け、必要なタスクをリストアップするなどの活動を開始した。その執行状況についても理事会にも報告を行ない、認識を一致させている。

(カ) 地域に開かれた学校の取り組み

- ・区や事業所の講習会、高校などの講師に、積極的に教員の派遣を行った。
- ・災害時には、講堂やラウンジを地域における避難所として開放することとしている。

(キ) 留学生受け入れの取り組み

- ・留学生説明会で学習内容と介護業務について丁寧に説明し、説明会への参加を出願要件とした。
- ・留学生のアルバイト先となる、医療、福祉・NPO等、各法人と常に連携を持ち、奨学金や修学資金なども活用して、学費、生活費の支弁を行っている。学校と受入れ法人とで、それぞれ留学生を担当する職員を決め、入管対応や日常生活上の困りごとや体調不良時の対応など、一緒に解決できる体制を作っている。
- ・日本語能力向上のため、授業とは別に日本語学習の課外授業を実施し、日本語能力検定試験の受験を促している。また、意欲的に学習に取り組んでもらえるよう、N2以上の合格を申請要件の一つとする、学費の減免制度を設けている。

《課題と解決方策》

課題は、財政基盤の安定化である。見直しを行なった新たな短・中長期事業計画を一步一步着実に進める。